

## 抄 録

## Beiträge zur Klinik der Tuberkulose, Bd. 78, H. 6, 1931

## 複雜ナル結核性圓形浸潤ニ就テ

A. Albert, Mehrfache tuberkulöse Rundinfiltrate.  
42 歳ノ女子ニシテ、夫ハ 7 年前肺結核ニテ死亡、全身榮養状態佳良ニシテ、喀痰ナキモ、軽度ノ咳嗽ヲ訴フルヲ以テ、上線診断ヲ行ヒタルニ、左右肺ニ境界明瞭ナル圓形浸潤合計 8 個ヲ有セル 1 例ヲ報告ス。  
(矢部抄)

## 肺結核患者ニ於ケル運動的胃液分泌検査ニ就テ

Karl Menzel, Max Kurt Schöffel, Kinetische Magensekretionsprüfung bei Lungentuberkulose.  
15—58 歳ノ女子 45 例、男子 55 例、合計 100 例ノ主トシテ中等症ニ少数ノ輕症及ビ重症ヲ含ム肺結核患者ニ、半硬「ゾンテ」ニテ 10 分間ノ間隔ヲ以テ、4 回胃液ヲ採取シ、検査ヲ行ヘルニ、60 %ハ酸過多、24 %ハ正常、9 %ハ酸過少、7 %ハ無酸ナリ。増殖播種型ニハ、酸過多著シク屢ニ遭遇シ、而シテ病症ノ程度強キモ又特ニ罹患期間ノ長キモノハ酸度高シ。

早期浸潤ニテハ、酸度ハ種々ニシテ一定ノ法則ヲ推定シ得ズ。再發浸潤ニテハ酸過多多シ。正常酸度ハ、中等症及ビ重症纖維性乾酪性經過ニ多シ、無酸症ハ肺結核ノ凡テノ種類ニアリ。6 例ノ不完全、1 例ノ「ヒスタミン」、中性赤、及ビ「インシュリン」ニテノ完全無酸アリ。

最も多數ニシテ、強度ノ苦痛ハ弱酸患者ニ多ク、次ニ正常酸度、次ニ酸過多、終リニ無酸ナリ。酸度ノ低下ハ屢ニ偽無酸性症狀ヲ示ス。

肺結核ノ胃液ニ於テハ、屢ニ曲線ハ酸性ノ上昇遅ク、曲線ノ不規則ナルモノニハ屢ニ漸進型ヲ見ル。

粘液ノ混入及ビ胆汁ノ逆流ハ屢ニシテ、前者ノ多量ノ鹽酸ノ缺亡ト結付キ、後者ハ曲線ニ明ナル影響ナシ。

胃及ビ十二指腸潰瘍ハナシ。  
(矢部抄)

光線ヲ照射セル「エルゴステリン」ノ實驗的ニ慢性ニ經過セル「モルモット」ノ結核ニ及ボス影響

Rudolf. Ereund, Beeinflußung der experimentellen chronische Verlauffenden Meerschweinchen-tuberkulose durch bestrahltes Ergosterin.

弱毒結核菌ノ千分ノ一廻ト十萬分ノ一廻トヲ以テ、「モルモット」ニ實驗的結核ヲ作レルニ、感染菌量ニヨル差異ヨリモ、動物個々ノ個性的差異ノ方意義大ナリ。光線ヲ照射セル「エルゴステリン」ヲ一、二滴油劑トシテ投與セルニ、「モルモット」ノ結核ノ經過ニハ明瞭ナル影響ヲ及ボサザリキ。

一、二滴ノ光線ヲ照射セル「エルゴステリン」ノ油劑ハ幼若「モルモット」ニ數ヶ月間投與セルニ何等ノ障碍ヲ認メザリキ。コレ等ノ「モルモット」ハ投與セザル「モルモット」ト等シク體重ヲ増加セリ。

コノ「エルゴステリン」ハ非特異性抵抗力ノ増加ノ意味ニテ影響ヲ與フルガ如シ。  
(矢部抄)

## 結核死菌ニヨル結核免疫ニ關スル研究

N. Westenrijk, Untersuchung über Immunisierung gegen Tuberkulose mit abgetöteten Tuberkelbacillen.

結核死菌ニヨル家兎ニヨル實驗ニ於テハ、抗體ノ形成ハ少ク共補體結合ニ於テ、免疫セル個體ニ結核ノ感染ニ對スルアル防禦力ノ増加ヲ示ス。Bessan, Zinser, Ward und Jenings, Branch, Langer, Petroff 諸氏ト共ニ、結核死菌ニヨリ、個體ニ比較的免疫ヲ附與シ、實地臨牀上一、小兒ニ應用シ得ベキ免疫力ヲ與フルモノト認ム。斯ノ如キ結核死菌ニヨル免疫ニ關シテハ、Langer ノ云ヘル如ク、唯幼若菌ヲ用フル事ヲ推奨ス。人體ニ應用スルニ際シテハ、唯極微量ヲ使用シ、時ニ階段的ニ増量使用スベシ。  
(矢部抄)

## 肺氣腫ニ於ケル肺量、換氣及運動代謝ニ就テ

J. Herms & I. Rüttgers Lungenvolumina, Ventilation und Arbeitstoffwechsel beim Lungenemphsem. J. Herms & I. Rüttgers.

Eppendorfer 病院ニ於テ 30 名ノ肺氣腫患者ヲ Spirograph ニテ検査セル結果、肺氣腫ハ炭酸「ガス」排

出ニ困難アリ、酸素攝取障碍ハ僅ニシテ唯重症者ニ於テノミ是ヲ見出ス。是等障碍ノ除去ニ務ムル換氣作用ハ種々ニシテ一部分ハ神經ノ影響ヲ蒙ルコトアリ、蓄量ノ増加ヲ示スモノニ於テハ、運動代謝障碍ヲ示シ、肺活量ノ減少ニ於テハ單ニ神經作用ニ基ク場合アリ。又病理的變化僅少ナルニ拘ラズ高度ノ運動代謝障碍ヲ示ス場合アリ。(矢部抄)

#### 「エオジン」嗜好氣管枝炎ノ知見

Robert Blum, Zur Kenntnis des eorinophilen Bronchialkatarrks.

32 年前 Teichmüller ニヨリ敘述セラレタル「エオジン」嗜好氣管枝炎ニ就テ、最近經驗シタル 6 例ニ就テ記載シ、本症ハ「レントゲン」検査ニテ病變ヲ示サズ、呼吸困難ヲ示スモノニテ、喀痰中ニ「エオジン」嗜好細胞ヲ見、血像ニテ「エオジン」嗜好細胞増加(10%—30%)ヲ示スモノニテ、本症ハ氣管枝喘息ニシテ、播種ヲ缺ケルモノニシテ豫後佳良ノモノナリト認ム。(矢部抄)

#### フリードレンデル氏肺炎ニ就テ

Kurt Schlapper, Über Friedländer-Pneumonien.

30 歳ノ女子突然呼吸困難ト胸痛トヲ覺エ、肋膜炎ト診斷セラレ入院セリ。「レントゲン」所見ニテ重症肺結核ト認メラレ人工氣胸ヲ行フニ一般症狀悪化シ 6 回ニテ中止ス、病狀ノ重症ナルニ毎常結核菌陰性ナルコトヲ稀有トシタルニ、間違ナキ Friedländer 菌ヲ發見シタリ。(矢部抄)

#### 肺療養所ノ牀壁キ蠟中ノ病原菌ノ存否ニ就テ

W. Zeun, Über das Vorkommen pathogener Keime in Gebrantchem Bohnerwachs von Lungensanatorien.

Sanatorien Altein ノ床ノ磨蠟ヲ採取シ、培養ト動物試験ト、鼠ニヨル飼養試験トヲ行ヘルニ、磨蠟 1 瓦ニ 12 億ノ細菌ヲ發見シタルモノノ中生活力ヲ保存セルモノハ 0.069%ノミナリキ、病原菌特ニ結核菌ヲ發見セザリキ、7 週間飼養セル兎ヲ解剖セルニ結核病變ヲ認メザリキ。(矢部抄)

#### タカタ氏反應ニ就テ

Franz Pongor, Über die Takata-Reaktion.

Takata 氏ハ血清ヲ食鹽水ニテ 8 本ノ試験管ニ倍數稀釋ニテ 256 倍マテ稀釋シ、各ニ 10%ノ重曹 0.25 cc ヲ加ヘ、コレニ新ニ製リタルタカタ氏液(0.5%昇汞

水、0.2%「フクシン」液等量) 0.3 cc ヲ加ヘ、30 分、2 時間、24 時間ニ沈澱ノ量ヲ見陽性率ヲ定メタルヲ改良シテ、24 時間後ニ於ケル沈澱ノ高サヲ mm ニテ計リ、8 本ノ試験管ノ高サヲ曲線ニ畫キ 10 mm 以上ニ至レルモノヲ陽性トシタルニ、262 例ノ活動性疾患ニテタカタ陽性 83.5%、コスタ陽性 89.3%、赤沈陽性 90%、222 例ノ空洞例ニテ、タカタ陽性 86.5%、コスタ陽性 89.3%、赤沈陽性 90.1%、199 例ノ結核菌陽性患者ニテ、タカタ陽性 90%、コスタ陽性 92%、赤沈陽性 93.5%ナリキ。

(矢部抄)

#### 人工氣胸ニ合併セル特發性氣胸ニシテ良好ナル經過ヲトレル 1 例

Demetrios Wesiroglu, Ein Fall von Spontanpneumothorax bei künstlichem Pneumothorax mit gutem Ausgang.

18 歳ノ男子。兩側潰瘍性纖維性肺結核。右ハ空洞ヲ有セル滲出性病像、左上葉ニ殆ンド擴ガレル主トシテ増殖性病像。右側ニ氣胸ヲ行ヒ、虚脱ヨク、一般症狀佳良ナリシモ、左ニ空洞ヲ生シ經過不良トナレルヲ以テ、更ニ左ニ氣胸ヲ行ヒ、圓滑ニ 300 cc、氣胸ヲ行フ事ヲ得タルニ、3 時間後ニ呼吸困難、「チアノーゼ」ヲ生ズ。特發性氣胸ナルヲ以テ、直チニ 1500 cc、吸出セルモ、直チニ氣胸症狀ヲ呈セルヲ以テ、ザルモンド氏ノ針ヲ常置セルニ 30 時間後内壓陰壓トナリ、患者ハ恢復セリ。(矢部抄)

#### ザウエルブルッフ、ヘルマンズドルフェル、ゲルソニヨル肺結核ノ榮養療法

A. Sylla und G. schöne: Zur Ernährungsbehandlung der Lungentuberkulose nach Sauerbruch-Herrmannsdorfer-Gersen. (S. H. G.)

2 年間ニ 72 例ノ肺結核患者ニ對シテ同療法ヲ施行セリ、此中、23 例(21.3%)ハ良好ナル結果ヲ得タルモ此大部分ガ、増殖硬結型ナル事ヲ顧慮スレバ何等良好ナル成績ト云フ事ヲ得ナイ、從ツテ、此食餌療法ハ肺結核ノ治療トシテ新シキ進歩テハナイ、此治療法ノ明確ナル適應症モ定ムル事が出來ナイ、著者ハ此食餌療法ノ前後ニ於テ血液、尿ノ所見ヲ比較シタガ血液「カルシウム」量ノ外ハ何等一定ノ方向ノ變化ヲ示サナイ、「カルシウム」量ハ此治療法ニヨリテ高マルガ是レガ治療の意義ヲ有スルヤ否ヤハ明カデナイ。(春木抄)

ゲルソン、ザウエルブルッフ、ヘルマンズ、  
ドルフェル氏食餌ヲ以テスル臨牀實驗

Drosdek: Praktische Erfahrungen mit  
der Gerson-Sauebruch-Herrmannsdorfer-Diät.

50 例ノ患者ニ於ケル實驗報告テアル。

體重ノ増加率ハ著明テナイ、又増加シテモ増悪セル  
場合ガアル、喀痰量ノ減少ヲ云フ人モアルカ著者ハ

是レヲ確メル事ガ出来ナイ、體溫、脈搏數ノ下降或  
ヒハ減少モナイ、赤血球沈降速度ガ速カニナルト云  
フ報告ハ多數アルガ、カ、ル事モナイ、一般状態ト  
平行スル。

一般ニ見テ此食餌療法ノ效果ハ否定ス可キテアルト  
シテ居ル。(春木抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 60, H. 2, 1931.

**結核症ニ對スル免疫ノ根據如何?**

Erik Hedvall: Worauf beruht die Immunität  
gegen Tuberkulose?

結核症ニ際シテ免疫現象ヲ如何ニ捕捉シ得ルカ? ナ  
ル疑問ノ下ニ著者ノナセル講演ニシテ、著者ノ原  
著 Ein Beitrag zur Frage des Mechanismus der  
Immunität gegen Tuberkulose, Acta Societatis  
Medicorum Suecanae (56). 1930, 8. 1—113 ヲ基礎ト  
シテ述ベタルモノナリ。

從來免疫現象ノ一部トシテ考ヘラレタルモノヲ體液  
反應ト細胞反應トニ分チ、體液反應中、凝集、析架、  
補體、食菌等ノ諸反應ハ免疫ノ程度ヲ直接或中間接  
ニ示スモノニ非ズ。即事實上感染ニ對シテ免疫高度  
ナル動物ニモ之等ヲ缺キ、或ハ強度ニ示スモノ少ナ  
カラズ。故ニ之等ノ抗體ハ何レモ免疫現象ニ非ズ。  
又細菌溶解作用ト考ヘラレタル、結核菌ヲ腹腔内ニ  
入レテ消失スル現象ハ溶解ニ非ズシテ、大網ニ吸收  
セラル、モノナルコトヲ Burnet, Calmette 等ノ業績  
ヲ惹イテ注意セリ。

細胞ノ反應トシテハ多核白血球、淋巴球、組織球等  
ガ免疫現象ヲ示スモノト考ヘラレタルモ、實驗上之  
等ニモ何等ノ確證ナシ。故ニ上ニ述ベタルモノト  
シテ免疫ヲ示スモノニ非ズ。

著者ハ體液反應トシテハ、Pettersson ノ  $\alpha$ -(Buchner  
氏 Alexin) 及ビ  $\beta$ -Lysin ヲ用ヒ、動物實驗ニヨリテ、  
價ノ上昇ヲ檢セルニ其何レニモ上昇ヲ示サズ。又淋  
巴球、多核白血球、組織球等ヲ各別ニ採集シテ、抗  
菌現象ノ遲昇ヲ檢セルニ之等モ亦成績陰性ナリ。即、  
結核症ニ對スル免疫トハ結核菌ニ對スル殺菌作用ノ  
増強ニ非ズシテ、何等物理化學的變化ニヨリテ、細  
胞ガ結核菌ニ對スル感度ヲ低下シ、爲メニ容易ニ結  
核結節ヲ形成セザルニ至ル状態トナルモノナリ。此  
際結核菌ハ Saprophyten ノ或ル種ノ如キ状態トナ

リ、毒力ヲ充分保存セルモ、非特殊性酵素ニヨリテ  
融解セラル、カ、或ハ又腎、腸等ヨリ排出サル、モ  
ノナリト結論セリ。(岡抄)

**結核症ニ對スル實驗的免疫生起試驗**

J. Bürgers (Königsberg): Experimentelle

Immunisierungsversuche gegen Tuberkulose.

家兔及ビ天竺鼠ヲ實驗動物トシテ、Schröder ノ胸腺  
「エキス」(Thymus-extrakt: Firma Schering) ニ就テ。  
經皮竝ニ皮下注入ニヨル免疫現象ヲ試驗セルモノナ  
リ。(Schröder: D. M. W. 1927, N. 24) 其何レモ特  
別ナル免疫現象ヲ現ハサ、リキ。但シ著者ハ接種ニ  
用ヒタル菌ノ毒力ガ充分弱メ居ラザリシ爲メナル可  
キカト附記セリ。(岡抄)

**「カタリザン」療法ノ經驗**

Hanns Alexander (Agra): Erfahrungen  
mit Catalysanbehandlung.

Catalysan ハ Weichardt (Z. Tbk. Bd. 53, H. 1) ノ發  
表セルモノニシテ「ビウレット」反應陰性ナル結核菌  
ヨリ得タル濾過性有機物ナリ。濃度 I 及ビ II アリ。  
36 例ニ就テ 1 ヶ月ヨリ 1 年 9 ヶ月ニ互リ治療ヲ試ミ  
タルモノナリ。副作用ヲ見ザリキ。成績大體ニ於テ  
可良。病歴ヲ掲載セリ。繼續シテ研究スル價值アリ  
ト記セルモ、猶著者ハ結核症ノ新治療劑ノ價值、無  
價值ノ批判ニ當リテハ、經驗ヲ積ムニ從ヒテ批判控  
へ目ニナルヲ常トスト追記セリ。(岡抄)

4) **結核症血清劑「タナトフチジン」ニ**

**關スル經驗追補**

H. Fecht: Weitere Erfahrungen mit dem  
Tuberkuloseserum Tharnatophthisin.

著者ハ嘗テ 216 例ニ就テ報告セリ (Z. Tbk. Bd. 54,  
H. 5)。今回ハ 55 例ヲ加ヘ、6 年間ニナセル 271 例  
ヲ總括セリ。注射ハ 14 日間隔ニテ 10 乃至 15 回  
ヲ越エザルコト。小兒ハ成人量ノ十分一ナリ。無害

ナリキ。臨牀的治癒大體 30%ナリト云フ。材料ヲミルニ硬化性増殖性 72 例(臨牀的治、49)、増殖性空洞性 40 例(臨牀的治、12)(174 例ノ統計)。

著者ハ同劑ノ愛好者ナル可キカ。増悪例現在 13.4 乃至 38.1%ナルモ、將來 24%ニ下ル可シ。或ハ増悪ハ同劑ノ爲メニ非ズ等ノ辯護ヲナセリ。

(岡抄)

### 肋膜淋巴節ノ結核症ニ就テ

Richard Roots: Über die Tuberkulose der pleuralen Lymphknötchen.

肋膜淋巴節ノ結核症ノ意義ニ就テ Anders ガ 1929 年獨逸病理學會席上ニテ、之レガ初期變化群トシテ、及ビ再感染竈トシテ、臨牀的ニ所謂早期浸潤ナルモノヲ生ズル場所ナルコトヲ述ベテ注意ヲ喚起セリ。其後之レガ追試ヲ發表セルモノナカリシガ、著者ハ Graz 市ノ Beitzke 教室指導ノ下ニ其當否ヲ研究セリ。材料ハ Graz 大學病理學教室ニテ剖檢セル 35 歳以上ノ 200 例ニシテ、死因ガ結核症ナラザルモノヲ主トシテ選ベリ。此等ノ例ニ見出セル總テ同淋巴節ヲ漏サズ集メタルニ 46 例ニ 147 個ヲ見出セリ。他ノ 154 例ニハ見出シ得ザリキ、胡椒實大以上ノ大サヲ有スルモノハ稀ニシテ、大部分ハ芥子粒位ノ甚小ナルモノナリキ。此肉眼的ニ得タル材料中、組織學的ニ肋膜下ノ肺内結核竈ナリシモノ 11 個、肋膜ニ在リテ淋巴節ナラザリシモノ 36 個ナリキ、即チ殘餘ノ 100 個ノ病變ヲ見ルニ、17 個ハ變化ナキカ、或ハ僅小ニシテ、31 個ハ輕度若クハ中等度ノ炭粉沈著ヲホスニ止レリ。54 個ハ炭粉沈著高度ニシテ且結締織増殖著明ナリ。然レドモ是等ニハ何等結核竈又ハ其遺殘ト認ム可キモノヲ見ズ。即チ僅カニ 8 個内ニ大體圓形ナル。多少硝子様化セル癭痕ヲ見出セルノミニシテ、結核性肉芽組織ヲ發見シ得タルモノ全然ナシ。著者ハ此内ノ 7 例ニ就テ所見ヲ記載セリ。是等全部ヲ假リ一結核性トスルモ其數甚ダ少キニ、實際上ノ所見ハ是等ヲ必シモ結核性ニ歸スルヲ得ズ、Graz ノ周圍ハ所謂 Kalkalp ニシテ、是等ノ病變ハ多クハ石粉、特ニ矽石粉ニ起因スルモノナリ。著者ハ肺血流ニ關スル諸文獻ヲ考慮シ、又粟粒結核症ニ際スル肋膜淋巴節ノ所見ヲ惹イテ、此淋巴節ノ血行性ニ結核症ニ罹患スルコトヲ否定セリ。尙ホ從來ノ初期變化群ニ於ケル治癒、配布、菌等ノ報告ヲ綜合シ、Anders 及ビ其ノ下ニ成レル Schwöe ノ説ハ

率ノ高キニ過グルコトヲ注意シ、且ツ肋膜淋巴節ナルモノハ結核症ノ臨牀ニ於ケル實際的價値ニ乏シキモノナリトセリ。Anders ノ説ニ反對セル一報告ニシテ興味多シ。(岡抄)

### 塵肺。結核症ヲ伴ヘル塵肺及ビ

#### 塵肺結核症ニ對スル素因ニ就テ

Franz Ikert(Gumbinnen): Über die Disposition zur Staublung, zur Staublung mit Tuberkulose und zur Staublungentuberkulose.

著者ハ曩ニ多年 Mansfeld ノ結核救護所ノ所長トシテ、此問題ヲ研究シ、既ニ TbkI-bibl. N. 15(1924)、Staublung u. -tbc.(1928)等ノ著書ノ他、Erg. d. ges. Tbk-forschg, Bd. I (1930), Beitr. Kl. Tbk. B. 72 (1929)等ニ此問題ニ關スル研究ヲ發表セリ。本論文ハ以上ノ立場ヨリ Mansfeld ノ材料ヲ整理セルモノナリ。2 章ヨリ成リ、第 1 章ハ文獻ノ綜説ニシテ、第 2 章ハ 10 年間ノ統計的觀察ナリ。例數 839、此内 709 例ハ Redeker ガ Sigaud ノ分類法ニ從テ體型ヲ分テルモノナリ。3 表アリ。肺病變(「レントゲン」)像ニヨリ著者ノ分類法ニ從テ程度ヲ三階ニ分テ、之レニ結核症ノ隨伴ヲ加フ)ト體型、年齡、從業年限(銅鑛)ノ關係ヲホセリ。同一鑛場ニテ、同一ノ有害塵ニ曝サレタルモノ、間ニ起ル塵肺ノ狀況單一ナラズ。又塵ノ種類、量ノ比較ニ於テモ亦然リ。之レ個體ノ素因ニ依ルモノナリ。體型ヨリ見レバ第 3 度ノ塵肺ハ Leptosomen ニ最多ク、Pyknisch 及ビ Pyknisch-muskulär ニ最少シ。年齡ヨリ觀レバ第 1 度ハ若年ニ多ク、老年ニハ第 3 度多シ(同年限從業スルモ)、結核症ノ隨伴ハ若年ニ多シ。從業年ヨリ觀レバ年ヲ經ルニ從テ、程度ヲ増スモ、Leptosomen ニ重ク、Muskulär-pyknisch ニ輕シ。結核症ノ隨伴ハ「レントゲン」ニヨリテ明カニ分チ得ルモノト然ラザルモノトアリ。本研究ハ未ダ盡サレザレモ、概シテ Leptosomen ハ塵肺、結核症共ニ素因多キモノト考ヘラル。(岡抄)

### 油胸ノ適應症ト其手技トニ就テ

Egon Waltuch(Grimmenstein): Zur Indikation und Technik des Oleothorax.

適應症ノ部ヲ 4 部ニ分テ、第 1、氣胸ニ代ル場合。氣胸ノ早期癒著ヲ防グ目的ノ爲メ(oleothorax antisymphysaire)、空洞壁ノ抵抗強ク氣胸ノミニテハ壓縮シ得ザル場合(oleothorax compressiv)、氣胸ニ際シ

テ空氣ノ吸收餘リニ速カナル場合、縦隔竇餘リニ抵抗弱キトキ(兩側性油胸-Ascoli)、種々ナル理由ニテ人工氣胸ヲ續ケ得ザル場合(Sociale Indikation)。第 2、横隔膜神經捻除術ニ際シ充分目的ヲ達シ得ザル場合。第 3、肋膜癒著切斷(Pleurolyse nach Jacobaeus)ハ方法簡易ナラズ、一般ニ行ヒ難シ。故ニ之レニ代リテ油胸ヲ行フトキハ屢々同一ノ目的ヲ達ス。第 4、胸廓成形術ハ最後ノ方法ニシテ、之レニ先チテ採リ得キ方法ノ考ヘ得ラル、モノアラバ先ヅ之ヲ試ミザル可カラズ(Maendl)。其一法トシテ油胸アリ。

手技トシテ著者ハ Franck ノ人工氣胸器ニ Salomon 氏ノ穿刺針ヲ使用ス。2.5% Jodipinöl Merck)ヲ始メ 25—30 cc 入レ、數日後 100—200 cc 追加シ行クモノナリ。壓ヲ陽壓ニナス事ヲ避ク可シ。油量不充

分ナルモ、空氣ハ吸收サレ行キ、滲出液出テ、油ヲ壓シ上グル爲メ目的ヲ達シ得ベシ。(岡抄)

#### 肺結核症喀痰中ノ結核菌ノ生死ノ量の計測法

Egon Butschowitz (Arosa): Methode zur quantitativen Bestimmung der toten und lebenden Tuberkelbazillen in Phthisikersputum.

著者ハ結核菌浮游液内ノ生菌量ノ計測法ヲ Z. Tbk. Bd. 55 (1929)ニ發表セリ。同方法ヲ喀痰ニ應用セルモノナリ。要領ハ早朝ノ喀痰 1—2 gr.ヲ Blockschälchenニ採取シ、4%苛性苛達ヲ 2—2.5cc 加ヘテ均等液トナス。之レニ「フェノールフタレイン」1 滴ヲ滴下シ、次テ定規鹽酸ニテ慎重ニ時間ヲ費シテ、中性ノ直前迄「アルカリ」性ヲ減少ス。之レニ「パン」用酵母ノ浮游液ヲ加ヘ、酵母トノ比ヲ測定シテ算出ス。著者ノ算式アリ。(岡抄)

### The American Review of Tuberculosis, Vol. XXV, No. 5. May. 1932.

#### R 1. 結核菌系ノ來歴ニ就テ

Leroy U. Gardner: The History of the R 1. Strain of Tubercle Bacillus.

Saranac Laboratoryニ於テ、R 1ナル名稱ヲ知ラレテオリ、且ツ又廣ク使用サレテオレ。此ノ結核菌系ハヨリ詳細ナル來歴ノ記載ヲ要スルモノデアレ。本菌ハ Dr. Trudeauガ 1891 年ニ粟粒結核ヲ死亡シタ患者カラ分離シタモノデアレ、初メ家兎ニ注射サレタモノテソレヨリ得タ第 1ノ subcultureヲ R 1ト命名シ續イテ本菌系ヲ總ベテ R 1ト呼ンダノデアレ。本菌ハ他ノ結核菌系ト異リ長イ期間ノ人工培養ニ依ツテソノ感染力ヲ全ク消失シタ様ナ事ハ無イト言ハレテ居ル。

Dr. Trudeauノ研究室ハ 1893 年火災ニ依ツテ全ク灰燼ニ歸シタガ同氏ガ友人達ニ送ツタ本菌ノ移植培養ニ依ツテ本菌系ヲ絶ヤサズニ殘スコトガ出來タ、動物ニ對スル本菌系ノ毒力ハ他ト多少異ルモノガアル即チ分離後 2 年間家兎ハ海狸ニ對シ病原性ヲ有スルモ 6 年後ニナルト普通量テハ家兎ヲ殺シ得ズ且ツ又海狸ニ對シテハ僅カノ慢性損傷ヲ起スニ過ギナカツタ、續イテ犢、猿、馬其ノ他ノ大動物ニ接種シタガ全身性結核ヲ起シタコトハナイ、但シ 40 年ノ人工培養間モ海狸ニ對スル病原性ヲ失ハズニ或ル程度存続セシメテ居ツタ、但シ之ハ一定不變ノモノデアナク多少ノ強弱ハアツタ。R 1 結核菌系ノ根源ハ尙ホ

確定シテ居ラヌ即チ牛型菌ト思ハレル様ナ所モアルガ又同様ニ之ニ反スル様ナ事實モアル。

(伊藤嘉抄)

#### American Sanatorium Associationニ

#### 依ツテ提唱サレタ靜止性肺結核ノ分類

#### 方法ノ概念ニ對スル異議

Louis H. Fales: A protest against the conception of arrest in Pulmonary Tuberculosis as outlined by the classification of the American Sanatorium Association.

現在ノ American Sanatorium Associationノ分類法ハ曖昧ナタメニ未ダカツテ完全ナコトハ無カツタ、其上最近 10 年間ニ於ケル肺結核ニ對スル我々ノ知識ガ進歩シテ居ルタメニ此法ハ至ツテ不十分ナモノニナツテ居ル。肺結核症ハ潛在性ノモノデアリ又靜止ニ依ツテ患者ハカナリ良好ナル状態ヲ示スモノデアレカラ肺組織ノ變化ニ比例スルモノデアナイ、夫故一身體症狀ハ靜止状態ヲ決定スルタメニハ大シタ參考ニハナラナイ、之ニ反シ結核症ノタメニ確カニ由來シテナル身體症狀ハ肺ノ活動性ヲ表現スルモノト考ヘテ良イ。理學の症狀殊ニ肺ノ口囉音ハ結核病症ノ進行モ退行ヲモ決定スル價值ハナイ故ニ分類方法ニ入レルベキモノデアナイ。病態ノ靜止ハ或ハ治癒ヲ決定スル主ナル據リ所ハ「レントゲン」デアツテ、之ハ分類法中卓越シタル地位ヲ占ムベキノデアレ、吾

人が或ル間隔ノ元ニ於テ引キ續キ影寫シタ「レントゲン」影像ヲ比較シテ、ソノ病症ガ硬化又ハ纖維化サレタコトヲ見、6ヶ月間モ安定状態ヲ示シテ居ツタコトヲ見タナラバ其處ハ静止状ニアルコトヲ知り得ル、殊ニ6ヶ月間モ經過シテ注意深キ運動ニ依ツテモ再ビソノ病竈ガ活動シナイト知ツタナラバ殊ニ然リテアル。

今後ノ分類法ハ單ニ病症ニバカリ重キヲ置カズニ現在アル種々ナル結核病型ヲ考慮ニ入レルコトハ必要ナル、之ハ單ニ豫後判定ヤ治療方針ヲ決定スル上ニ大切ナルバカリテナク臨牀家、「レントゲン」學者、病理學者等ニモ共通ナル Nomenclature ヲ示スニ便宜ナル。

(伊藤嘉抄)

#### 舟狀肩胛骨ト肺結核症ノ關係ニ就テ

(Missouri 州立療養院ニ於テ施行セル 325 人ニ對スル觀察 1930 年)

Hardy A. Kemp: Scaphoid Scapula and Pulmonary Tuberculosis.

(a Survey of 325 Cases at the Missouri State Sanatorium, 1930)

Grave 氏ハ年齢ト肩胛骨ノ種々ナル型ノ關係ヲ研究シ、健康者ト思ハレル人々ニ於テハ幼年時代(6歳カラ 15 歳迄)ニ凹面型ガ多ク、老年時代(60 歳以上)ニ於テハ凸面型ガ多イコトヲ觀察シタ、又更ラニ肩胛骨ト精神ヤ肉體ノ關係ヲ研究シタ。肩胛骨ト結核トノ關係ヲ研究シタ人々ハ少ナイ。著者ハ之ニ留意シ Missouri 州 Mount Vernon ニ在ル Missouri 州立療養所ニ居ル 325 名ノ肺結核患者ニ對シテ肩胛骨ト年齢ノ關係ヲ研究シタ、ソノ結果舟狀肩胛骨ハ結核ニ感染シ安イ體格ノ標準ナルト言フ事實ヲ見出シタ。年齢ノ關係ヲ言ヘバ舟狀肩胛骨ハ 20 年代迄ハ既ニ發表サレテアル健康者ノモノヨリモ高イ%ニ表ハレ、30 年代テハ前代ヨリハ少ナイガヤハリ同年代ノ健康者ヨリモ多イ。著者ノ觀察ニ依レバ舟狀肩胛骨ヤ肩胛骨ノ混合型ハ結核ニ感染シ安イ様ニ思ハレル、ナントナレバ此ノ型ノ人々ハ療養院中ノ大多數ニ見受ケラレタカラテアル、又凸面型ハ結核ニ對シテ抵抗力ガ強イ様ニ思ハレル、ナントナレバ是等ノ型ノ人々ハ恢復期ノ患者ニ多ク見受ケラレルカラテアル。

(伊藤嘉抄)

#### 耐酸性菌ノ睾丸内接種ニ依ル組織反應ノ比較ニ就テ

Esmond R. Long and Arthur J. Vorwald: A Comparison of Tissue Reactions to Testicular Inoculation of Acid-Fast Bacilli.

著者ハ睾丸内接種ニ依ル耐酸性菌ノ組織反應ヲ研究セントシテ人型結核菌、牛型結核菌、鳥型結核菌、冷血動物結核菌、恥垢菌、「チモータ」菌等ノ培養ヲ 0.1 mgm 取り 0.3 cc ノ生理的食鹽水ニテ浮游液ヲ作り之ヲ 500 gm ノ海狸ノ左側睾丸ニ注射セリ。著者ハ各菌注射後夫々動物ヲ 1 時間、6 時間、72 時間、1 週間、2 週間、4 週間後ニ之ヲ殺シテ見タルニ耐酸性菌ハ海狸ニ對シテ、カナリ大ナル毒力ヲ有スルコトヲ知ツタ。組織反應ニ於テハ人型結核菌ト牛型結核菌ノ間ニハ大シタ差異ハナカツタ、1 時間後ニ於ケル是等ノ病原菌ニ依ル反應ハ無病毒性菌ヨリモ強度テ其ノ終極ハ組織ノ化膿性壞疽デアツタ。6 時間後ノ睾丸ノ肉眼並ビニ顯微鏡ノ變化ハ 4 週間後ノ結果ヲ可成リ正確ニ豫知シ得ルモノナルト言フ事實ハ大切ナコトナル。使用サレタ鳥型結核菌ハ確カニ毒力ヲ有シテ居ツタガ人型、牛型菌ニ比シ遙カニ弱デアツタ、本菌ニヨル病竈ハ進行性テ細胞反應ハ 4 週間で徐々ニシカモ絶間ナク進行シテ行キ其ノ終極ハ中等度ノ化膿性壞疽デアアル、冷血動物結核菌テ生ジタ病竈ハ一時進行性傾向ヲ示シ、2 週間目ニ於テハ細胞反應ハ恥垢菌ヤ「チモータ」菌ヨリモ強ク見エルガ 4 週間後ニ於テハ、ソレ程デモナカツタ。本菌ニヨツテハ乾酪様ノ壞疽ハ發生シナカツタガ炎症反應ノ強サハ細精管ノ強度ナル萎縮ヲ來スニ充分デアツタ。恥垢菌、「チモータ」菌ノ接種ニヨツテハ中等度ノ反應ヲ顯ハシタニ過ギナイ、細胞浸潤ハ 3 日目頃カラ消失シ、壞疽ハ顯ハレズ炎症ハ 4 週間テ消失シタ。細精管ノ萎縮ハ僅カニ痕跡ニ止マツテ居ツタ、恐ラク本菌ハ注射後速ヤカー死滅シタモノト思考ス。觀察サレタ 5 ツノ菌型ニヨツテ起サレタ反應ハ最初ノ 2 週間ハ主トシテ多核白血球ニヨルモノデアリ、3 日目頃カラハ多核白血球ノ大部分ハ滲出セル單核白血球ニヨツテ置換サレタ、之レハ主トシテ喰細胞作用ニ依ルモノデアアル。純粹ナル病原菌(人型、牛型、並ビニ鳥型菌)ノ場合ハ 2 週間目ニ單核白血球ノ性質ノ變化ガ顯ハレ、同時ニ細胞體ノ原形質ノ増加、定型的ノ類上皮細胞ノ發育モ顯ハレタ。結核菌ハ是等細胞内ニモ見出サレタガ其レヨリモ乾酪變成中ニ存在セル化膿部位ニヨリ多ク發

見サレタ。著者ハ更ラ一兩峯丸中一方ヲ人型結核菌他方ヲ恥垢菌ニ依ツテ接種シタ所(但シ恥垢菌使用量ハ Sewell 氏ノ實驗ヨリモ少量デアアル)結核菌ニ對スル肉眼的變化ハ、唯一方ノ峯丸ニ結核菌ヲ單獨ニ接種シタ場合ト根本的ニ異ツテ居ツタ即チ接種後6時間及至24時間ニ於テ表ハレル著ノ充血ガ表ハレナカツタ、之ハ丁度血管運動神經ノ障礙ガ起ツタ様ナ觀ヲ呈シタ。但シ假令ヘ反對ノ峯丸ニ少量ノ恥垢菌ヲ接種シテモ他側ノ峯丸ニ於ケル結核菌ノ終極ノ變化ハ存續シテオツテ強度ナ結核性變化竝ビニ化膿ガ由來シタ。他方此ノ進行性結核ノタメニ恥垢菌ニ對スル組織ノ耐力ガ低下サレタ様ニ見ヘル之ハ多分耐酸性恥垢菌ノ蛋白質ニ對スル過敏性ヲ向上セシメタカラデアアル。

(伊藤嘉抄)

#### 非結核性肺膿瘍ニ對スル安靜療法

Homer H. Cherry: The Rest Treatment of Nontuberculous Pulmonary abscess.

X線竝ビニ「リビオドール」ノ使用以來肺膿瘍ハ吾人が考ヘテ居ツタヨリモ多ク存在スルモノデアアルト言フコトガ解ツタ。肺膿瘍ニ對スル療法ハ(1)「エチール」沃度ノ吸入、氣管枝排膿ヤ氣胸等ノ内科的療法ヲ伴フ臥牀安靜ト(2)外科的療法ノ2ツデアアル、シカシ何レモ或弊害ヲ有スルモノデアアル、此ノ何レヲ選ブベキカハ1ツニ主治醫ノ量見ニ依ルモノデアアル。著者ハ種々ノ人々ノ文獻竝ビニ自己ノ觀察ニ依リ早期及ビ長期間ニ亙ル肺膿瘍ノ療法ハ一般ニ考ヘテ居ラレルヨリモ多ク根治スルモノデアアルコトヲ知ツタ、シカシ氣管枝擴張症ニ近接セル膿瘍ヤ Friedländer 氏肺炎菌ニ依ル膿瘍或ハ慢性膿瘍ハ本療法テハ治リ難イ。多發性膿瘍ハ單發性ノモノノ様ニ安靜療法テハ治ラナイ。大シタ出來事ナジニ經過シタ本安靜療法ノ結果ハ膿瘍ノ治癒カ或ハ患者狀態ノ亢進ノ何レカヲ來スモノデアアル。

(伊藤嘉抄)

#### 人工氣胸療法ニ合併セル肋膜ノ滲出物

##### ノ治療ニ就テ

J. P. Nabant: The treatment of Pleural Effusions complicating Artificial-Pneumothorax Therapy.

人工氣胸ノ合併症トシテ屢々肋膜ノ滲出物が表ハレル、之ハ肋膜組織ノ變成ニ歸因スルモノテ其ノ原因

トシテ(1)氣胸ニ使用サレル空氣ガ肋腔内ノ溫度ヨリ低イコト、(2)肋腔内ニ入レラレル空氣ノ速度ガあまり迅速ナコト(3)あまり一度ニ空氣ヲ多量ニ入レルコト(4)肋膜癒着ガ存在スルタメ等ガ場ゲラレテ居ル。本症ノ處置トシテ若シ氣胸後ニ透明ナル滲出液ガ出テ、ソレガ自發的ニ吸收サレル傾向ガナイトキハ肋膜炎ヤ結核性膿胸ヲ豫防スル意味ニ於テ且ツ又患者ノ一般狀態ヲ亢進スル意味ニ於テソノ滲出液ヲ吸引セシバナラヌ。著者ハ透明ナル滲出液ヲ有スル8名ノ患者ト膿汁液ヲ有セル18名ノ患者トニ對シ吸引療法ヲ施行シタルニ其ノ結果ハ前者ニ於テハ83.3%ノ割ニ於テ完全ニ吸收サレ、後者ノ場合ニ於テハ83.8%ノ割合ニ於テ完全ニ吸收サレタ。本症ニ對シ現在色々進歩セル療法ガ試行サレテ居ルガ著者ハ此ノ吸引療法ガソノ内テモ最も簡單テ最も良好ナル方法ト考ヘテ居ル。

(伊藤抄)

#### 氣胸ニ合併セル肋膜滲出物ニ對スル療法ト

##### シテ Metaphen-in-oil ノ使用

I. Ellis Rudman and Richard T. Ellison:

Metaphen-in-oil in the Treatment of Pleural Effusions Complicating Pneumothorax.

肺結核ノ治療ニ對シテ人工氣胸ヲ用ヒタ際ニ起ル最も困難ナ合併症ハ滲出性肋膜炎デアアル。人々ハ本合併症ノ處置ニ對シ色々ノ方法ヲ考案シタ、1923年 Parziss 氏ハ Nitro-benzene-Mercury group ノ内カラ殺菌性ノ強イ化合物ヲ發見シ之ヲ Metaphen ト命名シタ(Metaphen ハ 4-Nitroanhydro-hydroxy-mercuri-ortho-cresol テアル)著者ハ本物質ヲ中性ノ「オレブ」油ニ溶解シ之ヲ4名ノ患者ニ使用シタ所本物質ハ肉腔内テ良好ク耐應シ何等局所ノ竝ビニ全身的影響ヲ現ハサナカツタ、又本物質ヲ結核性ノ滲出物ヤ膿胸ニ對シ長ク持續シテ用ヒルコトニヨリ何等肉膜ノ肥厚ヲ來サナカツタ。Metaphen-in-oil ヲ肋腔内ニ入レルコトハ癒着性肋膜炎ヲ豫防スル意味ニ於テ大切デアアル。本物質ノ強キ殺菌性竝ビニ靜菌性ニヨリ漿液纖維素性肋膜炎ヤ結核性膿胸ヨリ生ズル Ollulare[emnets ヲ液化スルカラ顯ハスモノト見ヘル。滲出液ノ比重ヲ低減スルコト竝ビニ之ヲ滅菌スルコトニ依リ肋膜ノ吸收力ヲ再ビ元狀ニ歸換シ得ルモノト見ヘルト。

(伊藤嘉抄)